

コロンビア大学留学記 — 留学を振り返って —

Columbia University
in the City of New York

土屋恭一郎

Kyoichiro Tsuchiya

東京医科歯科大学医学部附属病院 糖尿病・内分泌・代謝内科

はじめに

私は2009年4月から4年間、米国コロンビア大学医学部のDomenico Accili教授の下でポスドクとして留学生活を送りました。留学から帰国して2年少々が経ちましたが、留学生活は今となってはだいぶ昔のこのように感じます。それだけ米国での生活は特別であり、今となっては現実感を失いつつあります。思考と行動の多くを研究に充てて過ごした日々は、間違いなく自分の人生の中で最も貴重な期間であったと思います。

コロンビア大学の医学部キャンパス(Health Science Campus)は、華やかなニューヨーク市中心部から地下鉄で30分程離れたマンハッタン北西部に位置します。

キャンパス周辺は中南米からの移民が多く住む住宅地であり、飛び交う言葉の多くはスペイン語です。マンハッタン内にありながら観光ガイドブックにはほとんど載っていない地域であり、治安は決して良いとは言えませんでした。同じ地区にある私の住むアパートには空き巣が入ったこともあり、私自身も小切手やATMカードが知らないうちに他人に使用されて銀行に駆け込んだこともありました。

Accili教授との出会い

「留学中に得た最大のものは何か?」と尋ねられたら、それはAccili教授との出会いであると迷わず答えます。イタリアご出身のAccili教授は、まずNIHにて米国での研究生生活を開始され、1999年よりコロンビア大学



写真1 2009年時のメンバー
後列中央がAccili教授。前列左が筆者。